

対応・英抄なし

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-28104

(43) 公開日 平成7年(1995)5月23日

(51) Int.Cl.
B 6 5 F 1/06

識別記号 庁内整理番号
A

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願平5-58963

(22) 出願日 平成5年(1993)11月1日

(71) 出願人 390006231

アップリカ▲葛▼西株式会社
大阪府大阪市中央区島之内1丁目13-13

(72) 考案者 井上 圭史

大阪府大阪市中央区島之内1丁目13番13号
アップリカ▲葛▼西株式会社内

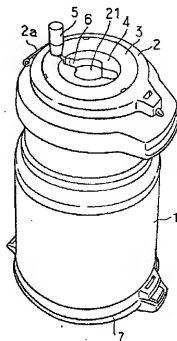
(74) 代理人 井理士 宮▼崎▲主税 (外1名)

(54) 【考案の名称】 パッケージング装置

(57) 【要約】

【目的】 チューブ状シートに振じり部を形成し該振じり部により長手方向に区分けしながら廃棄物を順次パッケージングするパッケージング装置において、誤ってチューブ状シートに穴を形成したり、チューブ状シートを切断したりするのを防止する。

【構成】 蓋体持部2の内側に、チューブ状シートを挟んだ状態で回転させてチューブ状シートの上方部に振じり部を形成するための外側回転部材3を設け、この外側回転部材3の内側にチューブ状シートを切断するためのカッターが取り付けられた内側回転部材4を回転可能に設ける。外側回転部材3を回転させるためのレバー5は、使用しない際に内側回転部材4側に倒せるように支持されており、レバー5が内側回転部材4側に倒された際レバー5を収納するためのレバー収納部6が形成されていることを特徴としている。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 チューブ状シートに振じり部を形成し該振じり部により長手方向に区分けしながら個々の廃棄物を順次パッケージするパッケージング装置であって、前記廃棄物をパッケージするためのパッケージング空間が上方部に設けられた容器本体と、前記チューブ状シートが収納され、前記容器本体のパッケージング空間を囲み回転可能ように設けられる筒状のシート収納部と、前記容器本体のパッケージング空間にその周囲からチューブ状シートを供給するように案内し、かつ前記シート収納部とともに回転するように設けられたガイド部と、前記パッケージング空間から容器本体内に押し込まれることにより、振じり部が形成されたチューブ状シートによって包まれる廃棄物を一時的に保持するよう容器本体内に設けられる保持部材と、前記容器本体の上部において開閉可能ように端部が支持された蓋体枠部と、前記蓋体枠部の内側に回転可能に設けられ、前記蓋体枠部を閉じた際、前記ガイド部の上を押さえ、ガイド部との間で前記チューブ状シートを挟むシート押さえ部を有し、該シート押さえ部によって前記チューブ状シートを挟んだ状態で、ガイド部及びシート収納部をともに回転させて前記保持部材によって保持された廃棄物を包むチューブ状シートの上方部に振じり部を形成するための外側回転部材と、前記外側回転部材の内側に外側回転部材と独立して回転可能に設けられ、パッケージ空間のチューブ状シートを切断するためのカッターが取り付けられている内側回転部材と、前記外側回転部材を回転させるため前記外側回転部材に取り付けられ、使用しない際には前記内側回転部材側に倒せるように支持されているレバーと、前記内側回転部材に形成され、前記レバーが内側回転部材側に倒れた際該レバーを収納し、これによって前記内側回転部材が前記外側回転部材に対し独立して回転しないようにその位置を固定するレバー収納部とを備えるパッケージング装置。

【図面の簡単な説明】

2

* 【図1】本考案の一実施例のパッケージング装置を示す斜視図。

【図2】図1に示す実施例のパッケージング装置を模式的に示す断面図。

【図3】図1に示す実施例のパッケージング装置のレバーを回転させるときの状態を示す拡大斜視図。

【図4】図1に示す実施例のパッケージング装置のレバーをレバー収納部に収納した状態を示す拡大斜視図。

【図5】図1に示す実施例の蓋体を示す平面図。

【図6】図5に示すA-A線に沿う断面図。

【図7】図1に示す実施例のパッケージング装置において蓋体枠部に外側回転部材を嵌め込む状態を示す分解斜視図。

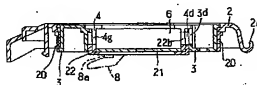
【図8】図1に示す実施例のパッケージング装置において外側回転部材に内側回転部材を嵌め入れる状態を示す分解斜視図。

【図9】図1に示す実施例のパッケージング装置において内側回転部材の組み合わせ状態を示す分解斜視図。

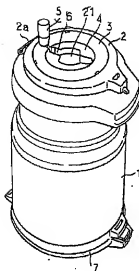
【符号の説明】

- 1 … 容器本体
- 2 … 蓋体枠部
- 3 … 外側回転部材
- 4 … 内側回転部材
- 5 … レバー
- 6 … レバー収納部
- 7 … 底部
- 8 … カッター部
- 8a … カッター部の刃
- 10 … チューブ状シート
- 11 … シート収納部
- 14 … スプリング
- 15 … ガイド部
- 16 … 振じり部
- 17 … パッケージ
- 18 … 結び目
- 20 … 筒状枠体
- 21 … 透明板
- 22 … 係止枠部

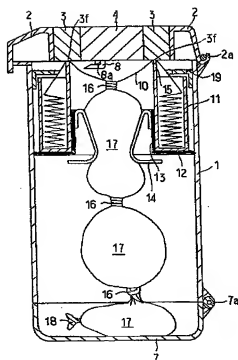
【図6】



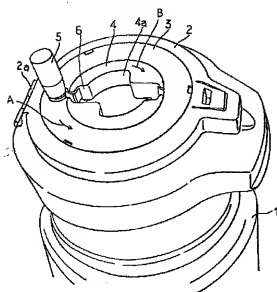
【図1】



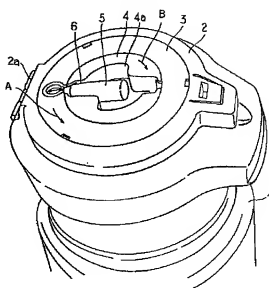
【図2】



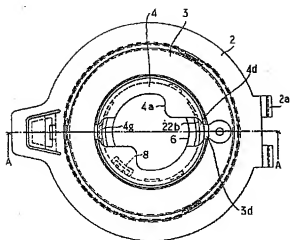
【図3】



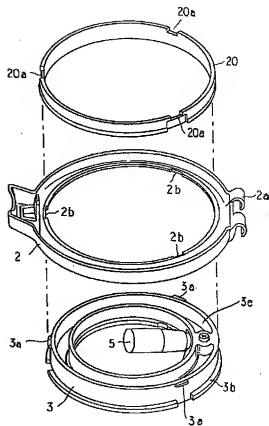
【図4】



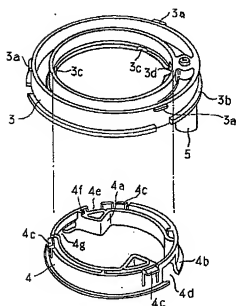
【図5】



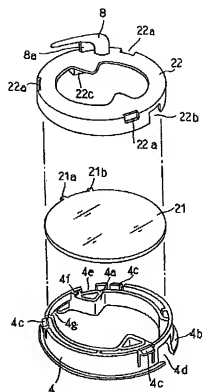
【図7】



【図8】



〔圖9〕



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、例えばベビー用使い捨ておむつ等のような廃棄物をチューブ状シートにパッケージしながら廃棄することのできるパッケージング装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

ベビー用使い捨ておむつ等の廃棄物をチューブ状シートに梱包しパッケージする装置としては、特開平1-226601号公報に開示された装置が知られている。該公報に開示された装置では、容器本体内にチューブ状シートを収納する筒状のシート収納部が回転可能のように設けられており、シート収納部から供給されるチューブ状シートに握り部が形成され、この握り部上にベビー用使い捨ておむつ等の廃棄物を載せ容器本体内に押し込むことによりシート収納部からチューブ状シートが供給される。容器本体内では供給されたチューブ状シートによって包まれた廃棄物が保持され、その位置が固定される。この状態でシート収納部の筒状部分を覆うように蓋を載せ、蓋を手で回転させることによってシート収納部及びシート収納部と蓋によって挟まれたチューブ状シートを回転させてチューブ状シートの上方部に握り部を形成する。

【0003】

このように握り部を形成することにより、一对の握り部によって区分けされたパッケージ部分に廃棄物が密閉され、周囲の雰囲気中に、臭気、蒸気及びガス等が逃げるのを防止することができる。チューブ状シートの上方部には再び握り部が形成されるので、新たに廃棄物をパッケージする場合、このチューブ状シートの握り部上に新たな廃棄物を載せ、容器本体内に押し込みパッケージすることができる。

【0004】

また、容器本体からチューブ状シートに包まれた廃棄物を取り出し処理する際には、蓋に回転可能に取り付けたカッター部を回転させ、上方の握り部のまわ

りのチューブ状シートを切断する。

【0005】

以上のようにして、上記公報に開示されたパッケージング装置では、廃棄物が生じる毎に、臭気、蒸気またはガス等の放出を防止しながら、パッケージすることができる。また各パッケージはチューブ状シートの握り部で区分けされたものであるため、容器本体から取り出し処理する際には一体的に取り扱うことができる。

【0006】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、上記公報に開示されたパッケージング装置では、誤ってカッター部を回転させてしまいチューブ状シートに穴が開いてしまうという問題があった。特に、カッター部はチューブ状シートを引っ掛けて切断するものであるため、チューブ状シートに引っ掛かりやすい形状に形成されており、パッケージング装置を移動等させた際にカッター部に触れ、誤ってカッター部が回転しチューブ状シートに穴を開けてしまうおそれがあった。上述のように、このパッケージング装置では、一对の握り部によってパッケージ部分を区分けし廃棄物を密閉し、臭気等がパッケージ部分から逃げるのを防止することを目的としており、チューブ状シートに穴が開くと、このような密閉性が保たれなくなり、パッケージング装置の機能が失われる。

【0007】

また、上記従来のパッケージング装置では、蓋を手で押しつけた状態でシート収納部を回転させる必要があり、握り部を形成させるのに大きな力を要するという問題もあった。

【0008】

本考案の目的は、上述の従来の問題点を解消し、誤ってカッターが取り付けられた部分を回転させてチューブ状シートに穴を開けたりするのを防止することができ、かつ容易に大きな力を要せず握り部を形成させることのできるパッケージング装置を提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本考案のパッケージング装置は、チューブ状シートに摺り部を形成し該摺り部により長手方向に区分けしながら個々の廃棄物を順次パッケージするパッケージング装置であって、廃棄物をパッケージするためのパッケージング空間が上方部に設けられた容器本体と、チューブ状シートが収納され、容器本体のパッケージング空間を囲み回転可能のように設けられる筒状のシート収納部と、容器本体のパッケージング空間にその周囲からチューブ状シートを供給するように案内し、かつシート収納部とともに回転するように設けられたガイド部と、パッケージング空間から容器本体内に押し込まれることにより、摺り部が形成されたチューブ状シートによって包まれる廃棄物を一時的に保持するよう容器本体内に設けられる保持部材と、容器本体の上方部において開閉可能のように端部が支持された蓋体枠部と、蓋体枠部の内側に回転可能に設けられ、蓋体枠部を閉じた際、ガイド部の上を押さえ、ガイド部との間でチューブ状シートを挟むシート押さえ部を有し、該シート押さえ部によってチューブ状シートを挟んだ状態で、ガイド部及びシート収納部とともに回転させて保持部材によって保持された廃棄物を包むチューブ状シートの上方部に摺り部を形成するための外側回転部材と、外側回転部材の内側に外側回転部材と独立して回転可能に設けられ、パッケージ空間のチューブ状シートを切断するためのカッターが取り付けられている内側回転部材と、外側回転部材を回転させるため外側回転部材に取り付けられ、使用しない際には内側回転部材側に倒せるように支持されているレバーと、内側回転部材に形成され、レバーが内側回転部材側に倒れた際該レバーを収納し、これによって内側回転部材が外側回転部材に対し独立して回転しないようにその位置を固定するレバー収納部とを備えることを特徴としている。

【0010】

【作用】

本考案では、チューブ状シートの上方部に摺り部を形成するための外側回転部材と、パッケージ空間のチューブ状シートを切断するためのカッターが取り付けられている内側回転部材とが備えられており、外側回転部材には外側回転部材を回転させるためのレバーが取り付けられている。またこのレバーは、使用しな

い際に内側回転部材側に倒せるように支持されている。内側回転部材には、レバーが内側回転部材側に倒れた際該レバーを収納するためのレバー収納部が設けられており、このレバー収納部にレバーを収納することにより、内側回転部材と外側回転部材の位置が固定され、内側回転部材が外側回転部材に対し独立して回転しないように固定される。

【0011】

従って、レバーがレバー収納部に収納されているときには、内側回転部材が外側回転部材に対し独立に回転することがない。従って、レバーがレバー収納部に収納されているときには、内側回転部材に取付けられたカッターによりチューブ状シートが切断されることはない。従って、本考案によれば、誤ってカッターによりチューブ状シートに穴を開けてしまうのを防止することができる。

【0012】

また、本考案によれば、外側回転部材にレバーが取り付けられているので、このレバーを搞んで回転させることにより、外側回転部材をスムーズに回転させることができる。

【0013】

【実施例】

図1は、本考案に従う一実施例のパッケージング装置を示す斜視図である。筒状の容器本体1の上方部には、開閉可能なように端部2aが支持された蓋体枠部2が設けられている。蓋体枠部2の内側には、外側回転部材3が回転可能に設けられている。外側回転部材3の内側には、内側回転部材4が設けられている。外側回転部材3には、外側回転部材3を回転するためのレバー5が設けられている。このレバー5は引き上げて内側回転部材4側に倒すことができるように外側回転部材3に支持されている。このレバー5が内側回転部材4側に倒れる際に、レバー5を収納できるような凹部が内側回転部材4に形成されており、レバー収納部6を構成している。内側回転部材4の中央の開口部の下方には、透明板21が設けられており、この透明板21を通して容器本体1内が目視できるようにされている。容器本体1の下方には底部7が開閉可能に設けられている。

【0014】

図2は、図1に示す実施例を模式的に示す断面図である。図2を参照して、容器本体1の上部には内側に向かって延びる内側フランジ12が設けられており、内側フランジ12の内側の端部からは上方に向かって延びるコア部13が形成されている。コア部13には、内側に向かって舌片が延びた板バネ状のスプリング14が設けられている。コア部13の回りには、内側フランジ12の上に乗せられた筒状のシート収納部11が設けられている。シート収納部11の内側には、チューブ状シート10が折り畳まれて収納されている。シート収納部11の内側壁部が上方に延び、チューブ状シート10を案内するガイド部15を形成している。シート収納部11の上方の容器本体1の内側には、シート収納部11が持ち上がるのを押さえるための収納部押さえ部材19が取り付けられている。

【0015】

容器本体1の上方には、蓋体が設けられており、図2においては蓋体を簡略化して示している。蓋体枠部2の端部2aの部分でヒンジにより蓋体枠部2が容器本体1に開閉可能に取り付けられている。蓋体枠部2の内側において回転可能に設けられている外側回転部材3の下方のシート押さえ部3fは、蓋体が閉じられた状態でガイド部15との間でチューブ状シート10を挟んだ状態となっている。外側回転部材3の内側に回転可能に設けられている内側回転部材4の下方部にはカッター部8が取り付けられている。カッター部8には、刃8aが取付けられている。

【0016】

図2を参照して、この実施例のパッケージング装置を用いて廃棄物をパッケージ化する操作について説明する。図2に示す状態では、すでに容器本体1内に3つのパッケージ17がすでに形成されており、新たな廃棄物に対してパッケージ可能な状態となっている。このような状態において、シート収納部11の内側がパッケージング空間を形成しており、パッケージング空間内のチューブ状シート10には握り部16が形成されている。廃棄物をパッケージするには、まず蓋体を持ち上げて開き、容器本体1の上方の握り部16が形成されたパッケージング空間内のチューブ状シート10の上に廃棄物を載せ、この廃棄物を容器本体1内に押し込んでいく。この押し込みによって、シート収納部11からガイド部1

5に沿って案内されながらチューブ状シート10がパッケージング空間内に供給される。このようにして廃棄物が新たに供給されたチューブ状シート10によって包まれ、パッケージング空間の下方に設けられたスプリング14の弾性力により保持される。この状態で蓋体を閉じる。

【0017】

図2は、蓋体を閉じた状態を示しており、この状態ではガイド部15を外側回転部材3の下方のシート押さえ部3fが押さえしており、これによってチューブ状シート10が外側回転部材3のシート押さえ部3fとガイド部10の間に挟まれ固定された状態となっている。この状態において、外側回転部材3を所定方向に回転させることにより、チューブ状シート10及びシート収納部11を回転させる。スプリング14によって保持されている廃棄物は、チューブ状シート10によって包まれており、このチューブ状シート10の上部には、チューブ状シート10の回転により振じり部16が形成される。この振じり部16の形成により、廃棄物を包むチューブ状シートの両端が密閉され、廃棄物からの臭気等の漏れが防止される。

【0018】

次に、新たに生じた廃棄物をパッケージする場合には、再び蓋体を開けて、上述と同様にして廃棄物をパッケージング空間内のチューブ状シート10の上に載せ容器本体1内部に押し込み、上記と同様の操作を行う。

【0019】

以上のようにしてチューブ状シートに振じり部を形成し、振じり部によりチューブ状シートの長手方向に区分けしながら廃棄物を順次パッケージすることができ。

【0020】

容器本体1内に廃棄物が所定量以上パッケージされ、廃棄物を取り出し処分する必要が生じた場合には、まず蓋体を閉じた状態で外側回転部材3を回転させパッケージ空間内のチューブ状シート10をできるだけ上方に持ち上げる。この状態で内側回転部材4を回転させると内側回転部材4の下方部に設けられたカッター部8の先端がパッケージ空間内のチューブ状シート10に引っ掛かり、次にカ

ッター部8に取付けられた刃8aによりチューブ状シート10が切断される。この状態で内側回転部材4を回転させることによりチューブ状シート10を切断しパッケージ17を切り離すことができる。切断した後、最上部の握り部16がもとに戻り、開放状態となる場合があるので、チューブ状シート10の上方部には結び目を形成しておくことが好ましい。次に、この実施例のパッケージング装置では、容器本体1の下方に底部7がヒンジ7aによって取り付けられているので、この底部7を開き、容器本体1内のチューブ状シート10によって包まれたパッケージ17を取り出す。

【0021】

次に、再度パッケージング装置を使用する場合、最初は握り部16が形成されていないので、チューブ状シートの端部を引出しこれに結び目18を形成する。結び目18を形成した後、上記と同様にして廃棄物をパッケージする。なお、この結び目18は、図2に示すように、容器本体1内のパッケージ17の先端部に形成された結び目18となる。

【0022】

図3は、この実施例のパッケージング装置を使用する際の状態を示す斜視図である。図3に示されるように、使用状態においては、レバー5を外側回転部材3の上に立てた状態とし、図2に示すようにチューブ状シート10をガイド部15との間で挟みシート収納部11を回転させる場合には、このレバー5を持ち、図3に示す矢印A方向に回転させる。これにより、図2を参照して説明したように、チューブ状シート10及びシート収納部11が回転し、握り部16が形成される。

【0023】

内側回転部材4の下方に取り付けられたカッター部8を用いてチューブ状シートを切断する際には、内側回転部材4の内側に形成された湾曲部4aの部分に指等をあて、図3に示す矢印B方向に内側回転部材4を回転させることにより、図2を参照して説明したように、カッター部8の先端がチューブ状シート10に引っ掛かり、次いでカッター部8の刃8aによりチューブ状シート10を切断することができる。内側回転部材4を回転させることによりチューブ状シート10を

環状に切断することができ切り離すことができる。

【0024】

この実施例のパッケージング装置では、外側回転部材3は図3に示す矢印A方向にのみ回転するように設定されている。

図4は、この実施例のパッケージング装置を使用しないときの状態を示す斜視図である。パッケージング装置を使用しないときには、レバー5を上方に持ち上げた状態で内側回転部材4側に倒し、内側回転部材4に形成されたレバー収納部6にレバー5を収納することができる。このようにレバー収納部6にレバー5を収納することにより、外側回転部材3と内側回転部材4の相対的な位置が固定される。外側回転部材3は、矢印A方向にのみ回転し反対方向には回転しないように設定されているので、内側回転部材4に矢印B方向に回転する力が加わっても、内側回転部材4はレバー5によりその回転が阻止されるので回転しない。従って、レバー5をレバー収納部6に収納した状態では、内側回転部材4に矢印B方向への力が加わっても内側回転部材の下方に設けられたカッター部によりチューブ状シートが切断されることはない。

【0025】

図5は、蓋体を示す平面図であり、図6は図5の矢印A-A線に沿う断面図である。なお、図6においてカッター部8及び刃8aは実際には図示されないが、その側方からみた際の位置を示すために一点鎖線で図示したものである。

【0026】

図6に示すように、外側回転部材3は、筒状枠体20により蓋体枠部2に取付けられている。

図7は、外側回転部材3の蓋体枠部2への組み合わせ状態を示す分解斜視図である。図7を参照して、外側回転部材3の一方端側には3つの係止突起3aが等間隔で形成されている。また他方端側にはフランジ3bが形成されている。外側回転部材3の一方端側に開口した溝部3eには、ゴム部材等が充填され、このゴム部材等が、図2に示すシート押さえ部3fとなる。

【0027】

蓋体枠部2の内側には、外側回転部材3の3つの係止突起3aと対応する位置

に溝部2bが形成されている。外側回転部材3を蓋体枠部2にはめ込むには、この溝部2bに係止突起3aを位置合わせし、蓋体枠部2内に外側回転部材3を押し込む。この状態で、筒状枠部20を外側回転部材3の回りに嵌め入れる。筒状枠部20には、外側回転部材3に係止突起3aに対応する位置に溝20aがそれぞれ形成されており、外側回転部材3の回りに筒状枠部20を嵌め込む際、この溝20aに係止突起3aの位置に合わせ、押し込むと係止突起3aの部分の可撓性により係止突起3aが筒状枠部20の内側を通して上方に移動し、係止突起3aが溝20aの部分に到達した時点で、係止突起3aがその弾性力により溝20aに嵌まり込む。これによって、外側回転部材3が蓋体枠部2に取付けられる。

【0028】

図6に戻り、内側回転部材4は係止枠部22により外側回転部材3の内側に取付けられる。内側回転部材4と係止枠部22により透明板21が保持されている。

【0029】

図8は、外側回転部材3に内側回転部材4を嵌め入れる状態を示す分解斜視図である。内側回転部材4の一端側には、3つの係止突起4cが所定間隔で形成されている。係止突起4cの両側には溝が形成され弾性が付与されている。また内側回転部材4の所定の対向する2カ所には切欠部4d、4gが形成されている。

【0030】

外側回転部材3の内側部分には、内側回転部材4の係止突起4cに対応する位置に溝部3cが形成されている。外側回転部材3内に内側回転部材4を挿入するには、外側回転部材3の溝部3cの位置に、内側回転部材4の係止突起4cを位置させて挿入し、挿入後外側回転部材3に対し、内側回転部材4を相対的に回転させて外側回転部材3の切欠部3dと内側回転部材4の切欠部4dとが一致する状態とする。この切欠部3d及び切欠部4dは、図5及び図6に示すように、レバー収納部6の一部となる。

【0031】

以上のようにして外側回転部材3内に挿入した内側回転部材4に対し、図9に

示すように透明板21及び係止枠部22を嵌め合わす。透明板21には2つの突起部21a, 21bが形成されており、突起部21aが内側回転部材4の内側に形成された突起部4fと当たるようにして、透明板21を内側回転部材4の内側に嵌め入れる。次に、係止枠部22を内側回転部材4に嵌め入れる。係止枠部22には、内側回転部材の3つの係止突起4cに対応する位置に孔22aが形成されており、この孔22aを係止突起4aの位置に合わせ係止枠部22を内側回転部材4に嵌め入れる。また係止枠部22には内側に突出した凸部が形成されており、この凸部は内側回転部材4に形成された溝4eに嵌め合わされる。内側回転部材4の係止突起4cは弾力性を有しているため、係止枠部22を嵌め入れた際係止枠部22の内壁に沿って内側に曲がり、係止突起4cが孔22aに位置したときに、弾性力により係止突起4cが孔22a内に嵌まり込む。また、係止枠部22に形成された切欠部22bは、内側枠部材4と嵌め合わされた状態において、内側回転部材4の切欠部4dと同じ位置に位置し、図5及び図6に示すように、これらはレバー収納部6の一部を構成する。また、カッター部8は係止枠部22に取付けられている。

【0032】

以上、本実施例における外側回転部材及び内側回転部材の構成部材について説明したが、本考案はこのような構成部材に限定されるものではない。

【0033】

【考案の効果】

本考案のパッケージング装置においては、ガイド部及びシート収納部を回転させ、チューブ状シートの上方に握り部を形成するための外側回転部材の内側に、カッターの取付けられた内側回転部材を有しており、外側回転部材に取付けられたレバーが内側回転部材側に倒せるように支持され、このレバーが内側回転部材側に倒れた際にレバーを収納するレバー収納部が備えられている。レバーがこのレバー収納部に収納されることによって、内側回転部材が外側回転部材に対して独立に回転しないようにその位置が固定される。このため、レバーをレバー収納部に収納した状態では内側回転部材が独立して回転することがなく、従って、カッターにより誤ってチューブ状シートに穴を開けたり、切断したりするのを

防止することができる。

【0034】

また、本考案では外側回転部材にレバーが取付けられているので、このレバーを持って回すことにより、容易に外側回転部材を回転させることができる。

さらに、レバーを使用しない際には、レバー収納部にレバーを収納することができ、レバーが邪魔にならず、また誤ってレバーを回転させてしまうのを防止することもできる。